

建築家・公衆衛生専門家が考えるこれからの保健所建築 今月14日-16日 展示を開催 災害時と平時の課題に対応

摂南大学（学長：荻田喜代一）理工学部建築学科小林健治准教授、木多彩子教授、池内淳子教授は、これまで災害時仕様に対応していない保健所建築について、整理した計画条件に対し、建築家3人が技術提案をまとめたシンポジウムを昨年11月に開催しました。これを受け、このたび、平常時と通常時を理想的にカバーできる機能を備えた“これからの保健所建築”の展示を行います。

【本件のポイント】

- 地震やコロナ禍で公衆衛生の拠点となる保健所は、災害時仕様になっていない。
- 気鋭の建築家3人が図面や模型を用いて、大地震時及び大感染症時に人々の健康を守るための“これまでの新しい保健所建築”を展示。
- 平常時の難病や障害を抱える方や職員のオフィス環境の面も考慮した提案。



2021年11月14日に大阪で開催したシンポジウム「日常と災害時をシームレスにつなぐ新しい保健所建築」の様子

我が国の保健所は、第二次大戦後 GHQ の指導のもと公衆衛生対策の現場第一線機関として大活躍し、いまま自然災害が起きた地域の公衆衛生の拠点として大きな役割を担う重要な機関です。また新型コロナウイルス感染症により改めて注目を浴び、保健所が感染症の第一線機関であることが浮き彫りになりました。しかしながら、保健所の建築は災害時や感染時といった有事を想定しておらず、有事のたびに全国から集まる支援者の活動スペースがない、耐震等級が一般建物と同等レベル、災害時には機能破綻が起きることなどが課題となっています。平常時においても保健所を利用する難病や障害を抱える方への配慮がなされていません。今回は、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展で金獅子賞の日本館インスタレーション「震災と亀裂」や「ゼンカイ」ハウスを手掛けた宮本佳明氏、ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ代表の前田茂樹氏、若手建築家の堀賢太氏の3人が、日常と災害時双方の課題を解決する「新しい保健所建築」の技術提案を公開します。

1. 開催日時：2022年8月14日（日）～16日（火）9：00～17：00
（16日のみ14：00まで）
2. 場 所：建築会館ギャラリー（東京都港区芝5丁目26番20号）
3. そ の 他：無料。プログラムの詳細は添付の資料をご覧ください。

■内容に関するお問い合わせ先

摂南大学 理工学部建築学科 准教授 小林健治
TEL：072-839-9133 E-mail：k-kobaya@arc.setsunan.ac.jp

■本件発信部署

学校法人常翔学園 広報室（担当：坂上、上田）TEL：072-800-5371 携帯：090-3038-9892

これからの保健所建築

— 建築家と公衆衛生の専門家による連携 —

我が国の保健所は、第二次大戦後 GHQ の指導のもと公衆衛生対策の現場第一線機関として大活躍しましたが、近年、行政改革の流れの中でその数は減少しています。ただし、自然災害が起きた地域の公衆衛生の拠点としての役割を担う重要な建築であることに変わりありません。また新型コロナウイルス感染症により、感染症の第一線機関であることが改めて浮き彫りになりました。そこで私たちは、日常と災害時双方の課題を解決する「これからの保健所」建築を建築家3名に計画いただき、建築家および公衆衛生の専門家との意見交換の機会を設けました。本展示では「これからの保健所」建築の計画案とともに、意見交換会の様子を公開します。

提案建築家

宮本佳明 (宮本佳明建築設計事務所)

前田茂樹 (ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ)

堀 賢太 (堀賢太建築設計事務所)

コーディネート

小林健治・木多彩子・池内淳子 (摂南大学理工学部建築学科)



会場：建築会館ギャラリー

最寄駅：JR 田町駅 都営地下鉄三田駅
(〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号)

会期：2022年8月14日(日) >> 16日(火) 9:00-17:00 (16日のみ 14:00 迄)

入場無料

本展示は2021年11月14日(日)に開催したシンポジウム「日常と災害時をシームレスにつなぐ新しい保健所建築」をもとに展示構成したものである(シンポジウムの概要は右記QRコードより視聴可能)。



展示内容の一部は科学研究費基盤C(課題番号20K05035)「災害時拠点機能と日常の「居場所」機能を有する保健所を計画する為の客観的指標の提案」研究代表者:小林健治によるものである。